

進路ガイダンス

2018 年 11 月

番 名前

大学進学について真剣に考えよう

立教では、高校2年生に進むにあたり、次のコースを選択します。

- 1. 国立文系コース**
- 2. 私立文系コース**
(含 イギリス大学進学コース)
- 3. 理系コース(国・私共通)**



2年次のコース選択について

高校2年生コース選択



私立文系 コース

国英社3科目に特化

国立文系 コース

国英社+数理

理系コース

数理に特化+国英社

- ・英語科目「英人社会とLiterature(週4)」「Critical Thinking(週3)」を受講する。
- ・数学科目は原則なし。ただし、「Critical Thinking(週3)」の代わりに「私文数学(週3)」を受講することもできる。
- ・理科科目は1学期前半の「GCSE BIO(週2)」のみ。
- ・「日本史」「世界史」から1科目を選択し受講する。

- ・数学科目として「数学II(週4)」「数学B(週2)」「数学B演習(週1)」を受講する。
- ・地歴科目として「日本史」「世界史」から1科目を選択し受講する。
- ・公民科目として「倫理・政経(週2)」を受講する
- ・理科科目として「化学基礎(週1)」「生物基礎(週2)」を受講する。

- ・数学科目として「数学II(週4)」「数学B(週2)」「理系数学(週4/5)」を受講する。
- ・理科科目1として「化学」を受講する。
- ・理科科目2として「物理」「生物」から1科目を選択し受講する。
- ・社会科目は原則なし。ただし、「倫理・政治経済(週2)」「理系地理(週2)」を選択し受講する事もできる。

大学入試の種類

一般入試

大学入試の主なものは、次の表の通りです。学力試験を中心に選考を行う

推薦入学・AO入試

と、学力以外の選考基準も使う

入学試験の名称	おおまかな内容	国立大学	私立大学
指定校推薦	大学が特定の高校に与える推薦入試のこと。その大学に進学した学生の実績を参考に、特定の出身高校に与えられる。毎年与えられるとは限らない。出願する時に、人数・成績・活動実績などに条件がある。募集人数が非常に少ない。(筆記試験や小論文試験、面接試験を受けるものもあれば、書類審査だけのこともある。学校長の推薦が必要。)	なし	大学・学部によつてある
推薦入試	学業を重視して自らを推薦し、試験をうけるもの。 大学が人物・成績・活動実績などの指定条件を提示しており、これをクリアしていると出願できる。(筆記試験や小論文試験、面接試験を受けるものもあれば、書類審査だけのこともある。学校長の推薦が必要。)	大学・学部によつてある	大学・学部によつてある
AO入試	大学が提示する ADMISSION POLICY(期待する学生像)に適合していれば出願できる。これと共に成績などの出願条件が設けられていることもある。(筆記試験や小論文試験、面接試験を受けるものもあれば、書類審査だけのこともある。) (例) 湘南藤沢キャンパスで何をどう学び、何を実現したいかという「問題意識」や「テーマ」が明確であり、入学を強く志望する人[慶應義塾大 総合政策・環境情報学部]	ほとんど なし	大学・学部によつてある
帰国生入試	海外の学校に通学していた学生向けの入学試験。通学した学校・通学期間・海外在住期間などに規定があり、大学によって規定が異なる。募集人数が非常に少ない。 (今までの統計によると、立教の場合、ほとんど適合しない。)	大学・学部によつてある	大学・学部によつてある
大学入試 センター試験	国公立大学を受験する場合は、必ず受験する学力試験。 私立大学でも『センター利用入試』というものを取り入れているところが多く、一般入試は受けずにセンター試験の点数を利用して合格することもできる。(一般入試を受けるより、合格点が高くなる傾向がある。)	必ず受験する	大学・学部によつてある
一般入試 (大学ごとの個別試験)	大学ごとに行っている個別試験で、学力試験。 どこの大学も行っている最も一般的な入学試験。	必ず受験する	一般的な試験



一般入試について

一般入試は、国公立と私立で試験方法が異なります。



① 国公立大学

一次試験：大学入学センター試験

+

二次試験：各大学、学部による入学試験

② 私立大学

各大学、学部による入学試験

or

センター試験の結果による合否判定

(約9割の大学が導入。いわゆる「センター利用」)

受験に必要な教科数は、国公立大学では多くの大学が5教科以上、私立大学のセンター試験利用方式では2～3教科が一般的です。

そのため、科目数の負担は国公立のほうが大きくなります。

【付録】どこで何が学べるの？ 学問分野早わかりガイド

学部系統別

学べる内容 要点チェック！

人文科学系

文学部系統

思想や歴史など人間文化の本質を総合的な観点から追求

文学部といつても対象となる分野は文学や言語だけにとどまらない。思想や歴史、人間の生き方や人間行動、文化・文明の本質などを総合的に追求していく学問領域といえる。歴史学や地理学、哲学、心理学などがその学問分野に含まれる。また、外国語学系と融合して英米語・英米文学科、フランス語・フランス文学科などとなっている学科も多い。

研究の手法も文献を主としたものだけでなく、

図像や画像などの非文字資料を通した研究や、フィールドワーク、コンピュータなどを多用した研究へと変化している。国際連携が進んでスケールの大きい研究が行われるようになっていけるのも近年のこの分野の特徴だ。

文学分野

- 日本文学
- 英米文学
- ドイツ文学
- フランス文学
- 中国文学

史学・地理学分野

- 歴史学
- 地理学

哲学分野

心理学分野

外国語学部系統

言語とその背景を広く学び 真の異文化理解を深める

単に外国語を学んで語学力を身につけるだけではなく、地域研究や地域文化研究を通して、その言語の背景にある歴史や文化、社会を体系的に学び、異文化への理解を深めることを目的としている。

かつては、英語、フランス語、ドイツ語などの伝統的な西洋言語の学科・専攻を中心だったが、近年は、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語など、英語+アジア言語というカリキュラムが、新設学部を中心に組ま

れるようになっている。

外国语、特に英語のコミュニケーション能力を留学で培う手法は、近年国際教養学部などで取り入れられているが、外国语学部も変わらない。留学を必修化し、ネイティブ教員による少人数授業でコミュニケーションの実践能力を高める傾向が主流だ。

語学分野

- 語学
- 英米語学
- ドイツ語学
- フランス語学
- スペイン語学
- 中国語学



人文・教養・人間科学部系統

幅広い分野の学問に触れ 教養を深めつつ専門性を養う

人文学部・教養学部は、広い分野の学問・芸術(学芸:リベラルアーツ)を学び、自分自身の人間性(ヒューマニティ)を高めることが共通の教育内容だ。

大きく分けると文化学系と人間科学系があり、専門領域の枠を取り扱った多様な学部・学科も

存在する。また、従来の学問を「学際化」や「国際化」をキーワードにして再編・融合し、人間や社会をさまざまな観点から解明する傾向も見逃せない。

近年の学問の高度・専門化、グローバル化で重視される教養教育を担う存在として、これらの学部の存在意義はますます高まるとみられる。

文化学分野

教養学分野

総合科学分野

人間科学分野／人文系その他

教育・教員養成系学部系統

実践的な各種教員養成課程と 広域にわたる教育学研究を学ぶ

この系統には、教員を養成する目的の学部・学科と、教育学などを研究する学部・学科があり、後者は教員免許取得を必須としていない(ゼロ免)ので注意しよう。

教員養成系には、幼稚園、小学校、中学・高校、特別支援教育、養護教諭などの課程がある。

国立の教員養成大学・学部の教員就職率は6割を超えており、これらの大学では教員養成課程の定員増、ゼロ免の廃止や定員減が行われている。私立では170に及ぶ大学が教員養成課程を設置し、主に小学校教員・幼稚園教諭の養成

を行っている。

教育学は、学校教育に限らず社会的、文化的な視点で教育を研究する学問。いじめや登校拒否、非行の低年齢化、引きこもりなど、教育学が直面する重要課題は数多い。

教育学分野

教員養成系課程

・小学校・幼稚園課程

・中学校課程

・特別支援教育課程

・養護教諭課程

総合科学などその他の諸課程

社会科学系

法学部系統

法学的な考え方を身につけて 法律、政治を専門的に学ぶ

法律学と政治学が法学部の両輪を担っている。

法律学は憲法、民法、刑法などの法律について学ぶと共に、法律のもつ哲学性、社会性、国際性などを様々な角度から研究する学問。政治学は人間が社会や国家を形成したときに起こる現象をやはり様々な角度から研究する学問だ。

政治・経済のグローバル化に伴い、国際政経、

国際関係法の分野も拡大しており、環境法に焦点を絞った地球環境法学科やビジネス法・企業法を扱うビジネス法学科なども設置されている。

法科大学院については、弁護士、裁判官、検察官(法曹)の養成を行う専門職大学院という位置づけで、高度な専門性が求められる職業に就くために必要な実践教育を行う教育機関だ。

法学分野

政治学分野

経済・経営・商学部系統

経済の理論と実際を学び ビジネスに精通した人材を育成

この系統は、主に経済の理論とその実証を学ぶ経済学系と、企業や組織の運営やマネジメント、財務、会計、流通、マーケティング、取引などの実学を学ぶ経営・商学系に分けられる。

問題解決型のアクティブ・ラーニングが主に初年次教育などに導入されており、ビジネスプランコンテストやインターンシップなどで、実社会と接触する機会も多くなっている。

経済・経営・商学部は、日本経済を支えるビジネスパーソンを養成する役割を担い、ヒト・

モノ・カネのグローバル化が進む中、さまざまな動きが進行しており、スポーツ経営、医療経営、地域経営といった分野も拡大している。

語学力やPCスキル、インターンシップの導入など実践教育にも力を入れており、文系であっても計算やコンピュータ、情報分野への適性が求められる。

経済学分野

経営学・経営情報学・商学・会計学分野

経営学

商学

経営情報学

会計学



社会・社会福祉学部系統

さまざまな観点から 社会と人間の関係を考察

社会学系は、家族や地域社会など共同生活を営む人間集団に起こるさまざまな現象について、その原因や実態を科学的かつ実践的手法で分析し解決策を探る学問。高齢介護、老々介護、いじめや虐待死、孤独死、自殺、ニートの増加やブラック企業など、社会を取り巻くあらゆる現象が対象となる。その手法は「社会調査」と呼ばれ、アンケートなどで大量のデータを取得・分析する統計的・社会調査と、インタビューなどで少人数を対象に行う事例的・社会調査の2つのア

プローチがある。

社会福祉系は、身体障害者や高齢者、経済的困窮者などへ自立のための援助をどう行うかを、政策に関わる分野と対人援助に関わる分野の2領域に分けて教育・研究が行われている。社会福祉の制度、保健・医療など福祉の現場で必要になる専門的知識や技術を学び、社会福祉士(ソーシャルワーカー)など福祉のスペシャリストを養成する。

社会学・認光学・メディア学分野

福祉学分野

国際関係学部系統

相互理解の可能性を探求し 真の国際人の養成を目指す

国と国との相互理解を目標に、世界の主要地域の法律や政治・経済・思想・言語・歴史などを学際的かつ総合的に学ぶ学問領域。

国際企業や国際機関で活躍するための高度な語学運用能力や、情報処理能力の向上も目指している。海外留学のサポートに力を入れている大学も多い。

教育研究のテーマも国際政治学、国際法、国

際経済、金融論など多岐にわたり、各大学の学部名・学科名も多彩。

カリキュラムは、1・2年次で英語とコンピュータの集中講義、3・4年次では地域研究を通して文化や政治経済などの専門知識を身につけるという流れが基本となる。

国際関係学・国際文化学分野

国際関係学

国際文化学



自然科学系

理学部系統

自然科学の基盤となる研究で 物事の本質に迫る

理学部は、物理学や化学、生物学、地学、数学など、高校で学んだ科目を発展させて専門・細分化された分野で、理論的かつ実験的な研究がおこなわれている。理学研究の土台なくしては、工学、農学、医学などの発展はないと言われている。

理学部系統の研究方法は理論と実証で、自然現象の本質に迫る学問といえる。近年は、地球・太陽系・宇宙を物理学・化学・生物学などを動員して解明する地球惑星科学分野や、生命の秘

密を化学・物理学・生物学(遺伝子学、分子生物学など)で解明しようとする生物情報学分野が焦点となっている。

実証のためのデータ収集は地道な作業。そうした努力をいとわず物事に潜む真理を論理的に研究したいタイプに向いている系統といえよう。

数学・情報科学分野

物理学分野

化学分野

生物学・生命科学分野

地学分野

環境科学分野／その他

工学部系統

自然科学を基礎に、人間と 社会に有用な“ものづくり”

理学部がどちらかというと基礎的な科学研究を主としているのに対して、工学部は基礎的科学の応用面を研究し人間と社会にとって役立つ“もの”を考え、つくる学部系統といえる。

この分野には多種多様な学科・専攻があり、研究内容は科学の進歩とともに絶えず進展し変貌を遂げている。例えば、機械工学科が機械システム工学科やロボット工学科、ロボティクス学科などに、電気工学科が電気電子工学科、電子情報工学科、電気電子システム工学科などに、土

木工学科が都市環境工学科、社会基盤工学科になるなど、学科名称も大きく変わりつつある。

先端技術を扱い、高度な知識が求められる企業などの研究・開発職に就くため、大学院に進学する学生が多いのも特徴だ。

理学と工学の両分野が学べる理工学部では、分野を越えて知識や技術を融合させ、新領域に対応している。

理学部・工学部(理工学部)の学生数は全学生的の2割近くを占め、国立大学に限れば3分の1以上にも達しており、まさに基幹学部と呼ぶにふさわしい。

機械工学分野

電気・電子工学分野

情報工学分野

土木工学分野

建築学分野

原子力工学分野

応用物理学分野

応用化学分野

生物工学分野

資源工学分野

材料工学分野

金属工学

無機材料工学

有機材料工学

総合材料工学

航空・宇宙工学分野

船舶・海洋工学・商船学分野

船舶・海洋工学

商船学

経営工学・管理工学分野

医用・生体工学分野

画像・光工学分野／その他

農・獣医畜産・水産学部系統

命を支える生産技術を研究・開発 バイオ、環境保全など先端分野も

農学系統には、田や畑を対象とする農学・農業学をはじめ、水産資源をより多く獲得することを目指した水産学、木材などの林産資源の獲得・供給を目指す林学・森林学、牛乳や肉類などの畜産資源の生産・供給を目指した畜産学・獣医学の4つの大きなジャンルに分けられる。

本来、安定した作物生産と豊かな農山漁村の形成を目指した農業研究は、微生物を用いた土壤や海洋環境の改善、バイオテクノロジーによ

る食糧増産、砂漠の緑地化、国境を超えた環境汚染、人畜共通感染症の予防など、その研究領域を大きく広げてきている。

獣医師養成が目的の獣医学科で注目されるのは2012年に北海道大など6大学でスタートした共同獣医学部・学科だ。昨年も岐阜大と鳥取大で共同獣医学部が誕生した。

これは獣医学部(学科・課程)をもつ2つの大学が共同でひとつの獣医学部(学科・課程)を運営するもので入学生たちは共通のカリキュラムで勉強することになる。

農学分野

農芸化学分野

農業工学分野

農業経済学分野

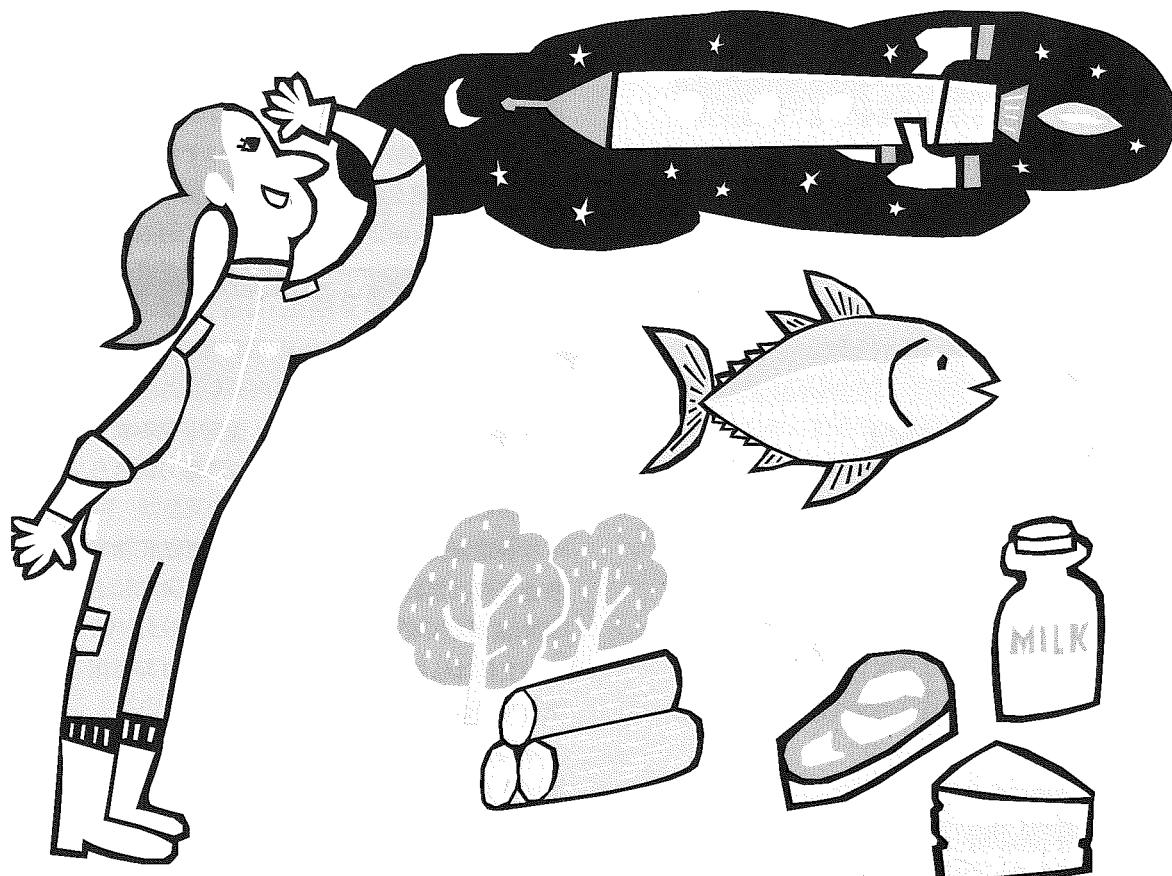
森林科学分野

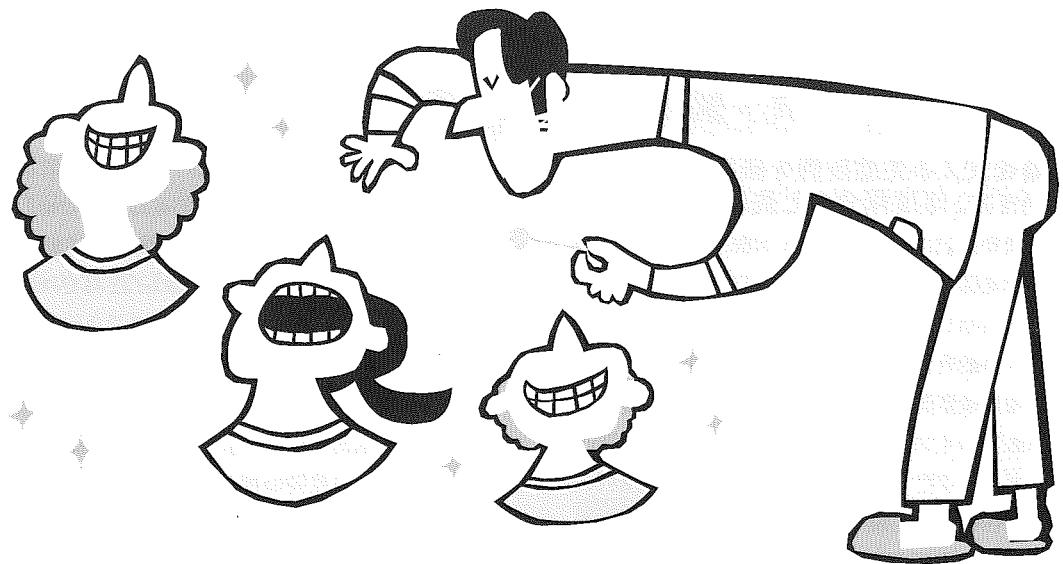
獣医学分野

畜産学・動物学分野

水産学分野

生物生産・生物資源学分野





医学・医療系

医学部

6年間で現場に必要な臨床能力を備えた医師を養成

医学部の教育目標は、卒業時点で基本的な臨床能力を備えた医師を育てること。1年次では一般教育、2~3年次は基礎医学、3~4年次で臨床医学、5~6年次は医療現場での臨床実習を体験し、医師国家試験に合格して医師免許を取得、という流れだ。臨床医になるには卒業後さらに2年間の臨床研修が義務づけられている。

医師には医学の専門知識だけでなく、看護師

や理学療法士、薬剤師、管理栄養士らとのチーム医療が求められており、患者との応対を含めてコミュニケーション能力も重視される。

医学部医学科の入学定員増については2008年度から7年連続で実施されており、2010年度からは①地域枠、②研究医枠、③歯学部振替枠の3つの枠が設けられ、各大学はそれぞれの目的に応じて定員増を申請し認可を受けている。2014年度の入学定員は計9,069人で過去最高。

医学分野

歯学部

歯科医師の育成に加え最先端技術の開発も行う

医学部と同様に6年間で歯科医師を養成する。1年次の一般教育、2~3年次の基礎歯科医学、3~4年次は臨床歯科医学、5~6年次では付属病院での臨床実習がある。6年修了時に歯科医師国家試験があり合格すると歯科医師免許を得る。卒業後1年以上の臨床研修が義務付けられている。

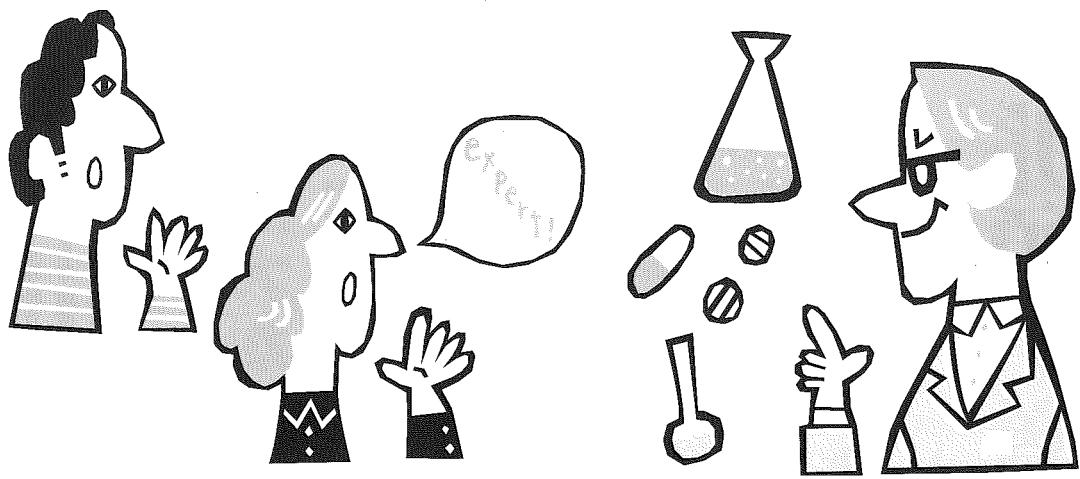
歯科医療は全身医療であるという考え方が一般的になり、虫歯の治療にとどまらず、口の健康を保つための予防や、単なる治療を越えた多

様な考え方が実践されており、遺伝子組み換え実験や脳科学まで、最先端の科学が取り入れられている。

定員増が続く医学部医学科とは対照的に歯学部歯学科は定員減が続いている。2014年は定員削減がなく2013年も1大学2人だったが、2012年は私立5大学で計42人、2011年は国公私立合わせて136人の削減があった。

国家試験合格率については、一時60%台にまで下降したが、2011年以降持ち直し、2013年は前年より0.1ポイントアップの71.2%。

歯学分野



薬学部

薬剤師や薬品開発者など 薬のエキスパートを育成

薬剤師の育成や創薬研究者の育成が主な目的。2006年度からスタートした薬学部6年制もすっかり定着した感がある。

「6年制」に入学した場合は卒業後に、「4年制」に入学した場合は大学院に進学して修士課程2年間を修了し実務実習後に、それぞれ薬剤師国家試験に合格すれば薬剤師免許が取得できる。

大学によっては6年制のみの設置と両方の併設があるので要注意。4年制と6年制を併設している大学では、どちらに進むかを入学時に選

択する場合と入学後に選択するケースに分かれたりもするのでよく調べておこう。

当初6年制の志願者数は減少傾向にあったが徐々に浸透するにつれ女子を中心とした資格志向もあって人気回復。2013年入試では国公立で前年比4%増、私立大(200大学集計)では20%増となった。一方、薬の研究・開発者養成を目的とした4年制は、受験生の人気という面ではやや厳しい状況といえる。今後の創薬分野での人材輩出が期待される。

薬学分野

看護・医療・栄養学部系統

医療や保健を支える 専門職の知識・技術を学ぶ

近年の病院や診療所などの医療機関では、医師の他にさまざまな医療専門家がチームを組んで患者の治療・リハビリにあたっている。

看護・医療・保健学分野では、看護師、保健師、助産師のほか、リハビリを行う理学療法士や作業療法士、X線撮影を行う診療放射線技師、血液検査などで診断・治療の基礎データをつくる臨床検査技師などの専門技術者の養成を目的としている。

この分野は人材不足を背景に学部・学科の新設が続いている。2013年4月現在で看護学部・学科・専攻がある大学は211校。医療・保健系の学部・学科を含めると257校に達し、今後ますます増加傾向にある。

栄養学分野は、栄養士、管理栄養士の養成が主な目的だ。栄養士は病院や社会福祉施設、児童施設などで栄養学に基づいた献立を作り調理法の改善・指導を行う。管理栄養士は、病院の患者のために医師や看護師と協力して栄養指導を行ったり、給食関連事業の管理や健康増進、病気予防の栄養指導を行ったりする。

いずれも専門的な知識・技術を学ぶが、栄養士以外の資格はすべて国家試験がある。

看護学分野

医療・保健学分野

- ・医療
- ・保健

栄養学分野